

中医協「第48回薬価専門部会」

日薬連の薬価制度改革案を今後の議論のベースにすることで合意

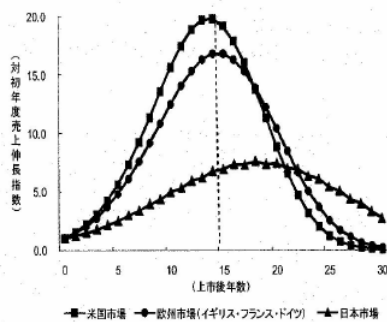
中医協の薬価専門部会は9月24日、前回に引き続き、日薬連が提案する薬価制度改革案について議論した。日薬連の改革案は、革新性をより適切に評価できる仕組み、特許期間中の新薬価格維持、特許期間終了後の先発品の一定幅引き下げなどで、改革案について説明した専門委員（長野明・第一三共株式会社常務執行役員信頼性保証本部長、禰宜寛治・武田薬品工業株式会社コーポレートオフィサー業務統括部長、渡辺自修・株式会社メディセオ・パルタックホールディングス取締役相談役）は、これらの改革により、治療難度の高い疾患に対する革新的新薬の創出が加速し、欧米諸国と同様にいち早く革新的新薬による治療が可能になるなどのメリットがあるとしている。

今回提案の薬価制度改革実現後の医療用医薬品市場

従来の日本市場における売上パターンは、欧米市場に比し特許期間中の成長が緩やかである一方で、長期にわたり売上を維持している点の特徴であったが、今後は特許期間中の成長拡大と特許期間満了後の後発品への急速な代替とのバランスにより、結果として成長パターンは欧米市場型に近づく。

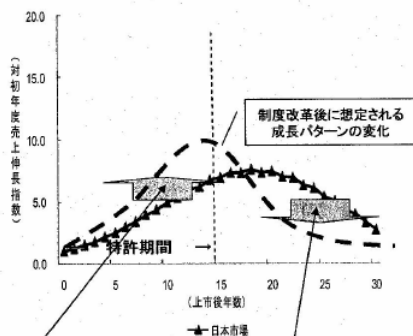
従来の売上パターン〔欧米市場との比較〕

（後発品使用促進前）



制度改革後の売上パターンの変化

（後発品使用促進+今回提案の実現）



特許期間中の成長拡大

後発品への急速な代替

注1: 米国、欧州3か国は2006年売上上位70品目、日本は2005年および2006年（薬価改定の影響を考慮）を対象とし、各売上上位70品目の上市後年数と対前年伸長率（現地通貨ベース）との回帰式から成長曲線を推定
注2: 対初年度売上伸長指数は、上市年（上市後0年）の売上を1としたときの累積伸び率
注3: 欧州はイギリス、フランス、ドイツ各上位70品目（計210品目）から推定
出所: 日米欧の推定成長曲線は、IMS World Review、IMS Lifecycle、Pharmaprojectsをもとに政策研ニュースNO.25
「国内医薬品市場の将来予測と新薬創出への影響」P.3図7を改訂（政策研）（転写・複製不可）。

13

特許期間中の新薬価格維持について、「非常に革新的な新薬については、市場であまり価格が下がらない努力をすることが筋ではないか」とする対馬忠明委員（健康保険組合連合会専務理事）に対し、専門委員は「画期的新薬が出た後、2番手、3番手が出るまでに3～5年しかかからない。薬剤費に影響を及ぼすような画期的新薬は、非常に短い期間で市場競争が始まる」と改革案への理解を求めた。

今後は、同改革案をベースに、個々の論点について議論を進める。